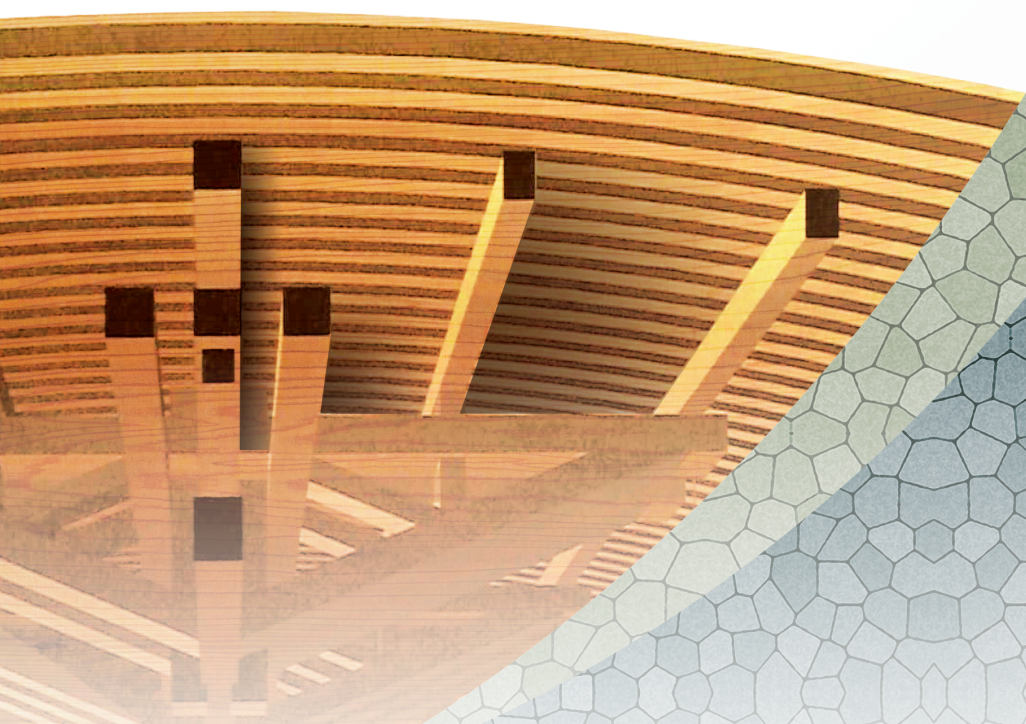


》》 第6章 事業の効果



6-1 交通における効果

【踏切除却による交通渋滞の解消】

15の踏切が除却されたことにより、交通渋滞が解消され、安全安心な生活環境が実現した。

- 本妙寺踏切 最大渋滞長 600m、遮断時間 174分/日（平成13年度調査）⇒ ゼロ
- 古道踏切 最大渋滞長 150m、遮断時間 215分/日（平成19年度調査）⇒ ゼロ



本妙寺踏切

【踏切除却による社会的損失の解消】

15の踏切が除却されたことにより、滞留がなくなり、社会的損失がなくなった。

- 本妙寺踏切 ピーク時滞留台数 561台（平成21年度調査）⇒ ゼロ
- 古道踏切 ピーク時滞留台数 196台（平成21年度調査）⇒ ゼロ

【踏切除却による利便性向上と交通量の増加】

踏切が除却されたことで安全性と利便性が高まり、JR鹿児島本線の東西間で交通量が増加し交流が活発になった。

- 永運橋 交通量 6,490台/12h（平成20年度調査）⇒ 6,911台/12h（平成27年度調査）
- 段山橋 交通量12,363台/12h（平成20年度調査）⇒ 12,512台/12h（平成27年度調査）

【踏切除却による不安感の減少】

踏切が除却されたことで、保育園児が課外授業（散歩等）に行く際の職員・園児の踏切に対する不安感やストレスが軽減された。

●横手保育園職員のコメント

「下馬天神踏切がなくなって、北岡神社やかぼちゃ公園（春日5丁目公園）、おてもやん公園、清水寺に散歩に行く際の職員・園児のストレスは軽減された。」



保育園児の散歩状況

【側道整備による消防活動の支援】

側道が整備されたことで、沿線火災が発生した際に緊急車両が沿線の建物に寄り付けるようになったため、消火方法が向上し、消火時間の短縮につながった。

●西消防署隊員のコメント

「側道が整備されたことにより、沿線火災の際に、緊急車両が沿線建物に寄り付けるようになったため、消火が格段にしやすくなり、消火時間も短縮された。」



本妙寺踏切付近側道

【利便性向上等による賑わいの創出】

熊本駅周辺地域では、鉄道の利便性や都市としての魅力が向上したことで、観光案内所利用者数や歩行者交通量が増えるなど賑わいが創出された。

- 熊本駅総合観光案内所 利用者（訪日観光客） 5,798人（平成17年度調査）
⇒ 27,481人（平成30年度調査）

- 熊本駅前広場白川口出口 歩行者交通量 2,531人/平日8-20時（平成17年度）
⇒ 13,908人/平日8-20時（平成30年度）

資料：商店街通行量調査

【鉄道の利便性向上による乗車人員の増加】

鉄道の利便性が向上したことにより、熊本駅及び上熊本駅の乗車人員が増加した。

- 熊 本 駅 日平均乗車人員 11,266人/日（平成13年度）⇒ 15,375人/日（平成30年度）
- 上熊本駅 日平均乗車人員 2,482人/日（平成13年度）⇒ 2,788人/日（平成30年度）

資料：九州旅客鉄道株式会社

【結節機能向上による乗降客数の増加】

熊本駅では市電との結節機能向上により利便性が向上し、市電の乗降客数が増加した。

- 市電熊本駅前 乗降客数 5,749人/日（平成13年度）⇒ 7,448人/日（平成30年度）

資料：熊本市交通局



熊本駅前電停

6-2 土地利用における効果

【利便性向上による居住地・従業地の魅力向上】

熊本駅周辺地域においては、民間マンション等が立地することで夜間人口が増加し、また、合同庁舎や専門学校等が立地することで昼間人口が増加した。

- 春日地区（1、2、3、6丁目） 夜間人口 2,655人（平成13年度）⇒ 3,003人（平成31年度）
資料：住民基本台帳
- 熊本合同庁舎 職員数 2,200人



春日地区（1、2、3、6丁目）

【居住地の魅力向上による世帯数（子育て世代）の増加】

熊本駅周辺地域では、子育て世代の居住地としての魅力が向上し、春日地区では世帯数の増加とともに若年人口の割合が上昇し、教育施設の園児数・児童数も増加した。

- 春日1～4・6丁目 世帯数 1,894世帯（平成13年度）⇒ 2,259世帯（平成31年度）
- 春日1～4・6丁目 若年人口割合 10.2%（平成13年度）⇒ 13.3%（平成31年度）
資料：住民基本台帳

●春日小校長のコメント

「熊本駅東口側のマンションから通う児童も増え、横断歩道橋と駅構内の地下道を利用することで、安全に通学できるようになった。」



春日小学校

【鉄道高架化による周辺開発の誘発】

熊本駅周辺地域においては、鉄道の高架化にあわせて、土地区画整理事業や市街地再開発事業等を一体的に整備することにより、民間のマンション建設等を誘発するなどストック効果が発現している。

- 熊本駅西側住宅地（県熊本西住2） 基準地価 81千円/㎡（平成20年）
⇒ 94千円/㎡（平成30年）



東A地区再開発事業



民間マンション

【駅周辺の魅力向上による商業地価の上昇】

熊本駅周辺地域では、都市としての魅力が向上したことで、商業地価が上昇しており、民間開発も増加している。

- 熊本駅東側商業地（県熊本西商3） 基準地価 450千円/㎡（平成21年）
⇒ 575千円/㎡（平成30年）

【熊本駅部における地価の上昇】

熊本駅部では、住宅地価は上昇傾向、商業地価は白川口前において上昇傾向にある。

【まちの活力向上による地域活動の誘発】

鉄道の高架化をきっかけに、コミュニティの維持・存続・発展を目指した地域活動の開催や、鉄道高架化によるまちの活力向上を契機に、各地区で様々な活動やイベントが開催されている。

●一新校区自治会長のコメント

「あさがお市を高麗門踏切の西側の道路空間で行っているが将来的には御成道（自転車歩行者道の側道）を活用して、昔行っていた高麗門市として拡大（復活）させたい。」

●春日小学校校長のコメント

「春日ぼうぶら祭りは、駅周辺の再開発で立ち退きがあった際にコミュニティの希薄化を懸念し、地域活性化目的で始めたと言われていてH27で12回目になる。」



一新あさがお市 ポスター



資料：春日小創立140周年記念誌「春日」
ぼうぶら祭りの様子

【事業完了によるストック効果の増大】

事業完了後に整備予定の熊本駅白川口駅前広場や在来線跡地の開発計画も進展しており、更なる民間開発の誘発や夜間・昼間人口の増加などのストック効果の増大が見込まれる。